

## 「カイザルへの税金」

マタ 22 : 15~22

### 1. はじめに

\*きょうの箇所は、よく誤解される箇所である。

#### (1) 文脈の確認

- ①イエスの最後の1週間について学んでいる。
- ②きょうの出来事は、火曜日に起こったものである。
- ③イエスは、神の小羊として4つのグループの指導者たちから挑戦を受ける。
- ④挑戦の目的は2つある。
  - \*群衆を誘導し、イエスに敵対させること
  - \*イエスがローマ法に違反しているという口実を見つけること
- ⑤イエスに挑戦した最初のグループは、祭司長とパリサイ人たちである。
- ⑥第2のグループは、パリサイ人とヘロデ党の者たちである。
- ⑦有名ではあるが、解釈が難しい箇所である。

#### (2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 133 パリサイ人とヘロデ党の者たちが、イエスの権威に挑戦する。

マコ 12 : 13~17、マタ 22 : 15~22、ルカ 20 : 20~26

### 2. アウトライン

- (1) パリサイ人たちの策略 (15~17 節)
- (2) イエスの要求 (18~19 節)
- (3) 質疑応答 (20~22 節)

### 3. 結論 : 2つの盲点

- (1) 2種類の権威
- (2) 神への従順

小羊の吟味から、霊的教訓を学ぶ。

#### I. パリサイ人たちの策略 (15~17 節)

##### 1. 15~16 節 a

Mat 22:15 そのころ、パリサイ人たちは出て来て、どのようにイエスをことばのわなにかけ

ようかと相談した。

Mat 22:16 彼らはその弟子たちを、ヘロデ党の者たちといっしょにイエスのもとにやって、  
こう言わせた。

- (1) 首謀者は、パリサイ人たちである。
  - ①イエスをことばのわななにかける。
  - ②言葉じりを捉える。
  - ③揚げ足を取る。
  
- (2) 弟子たちをヘロデ党の者たちといっしょにイエスのもとに遣った。
  - ①パリサイ人とヘロデ党の者は、通常は敵対関係にあった。
  - ②イエスを共通の敵としたので、両者の違いは問題にはならなかった。
  - ③パリサイ人たちは、モーセの律法が要求する複数の証人を用意したのである。
  
- (3) パリサイ人の特徴
  - ①いかなる状況においても、ローマの支配を認めない。反体制派である。
  - ②彼らは、カイザル(皇帝)を王として認めることは、【主】が王であることを否定することであると教えていた。
  - ③カイザルに税金を納めることは、イスラエルの上にローマの権威があると認めることである。
  
- (4) ヘロデ党の者の特徴
  - ①彼らは、宗教的なグループではない。
  - ②彼らは、ヘロデ大王の統治を積極的に支持した人たちである。
  - ③今も、ヘロデ・アンティパスを初めとするヘロデ王朝の者たちを支持している。
  - ④ローマの支配を受け入れている現実主義者たちである。
  - ⑤ヘロデ家の中からユダヤの王になる者が出ることを期待している。
  - ⑥ポンテオ・ピラトがユダヤの総督であることを喜んでいない。
  - ⑦民衆の暴動が原因で、ローマがより強力な統治体制を取ることを恐れている。
  
- (5) 主人公が自分に向けられた難問に見事に答えるというのは、古典のテーマである。

「ときに、シエバの女王が、【主】の名に関連してソロモンの名声を伝え聞き、難問をもって彼をためそうとして、やって来た」(1列10:1)

  - ①イエスはソロモン以上の方である。
  - ②イエスは、傷もしみもない神の小羊である。

2. 16b～17節

「先生。私たちは、あなたが真実な方で、真理に基づいて神の道を教え、だれをもはばからない方だと存じています。あなたは、人の顔色を見られないからです。

Mat 22:17 それで、どう思われるのか言ってください。税金をカイザルに納めることは、律法にかなっていることでしょうか。かなっていないことでしょうか。」

(1) 最初の語りかけの言葉

- ①偽善的な言葉である。
- ②彼らは、イエスを信じていなかったのである。

(2) イエスを畏にかけるための質問

- ①カイザルに税金を納めるべきか否か。
- ②これは、ローマへの反抗か従順かを問う質問である。
- ③「イエス」と答えれば、民衆が騒ぐ。特に、熱心党の者たちを怒らせる。
- ④「ノー」と答えれば、ローマに逮捕される。ヘロデ党の者たちを怒らせる。

## II. イエスの要求 (18～19節)

1. 18節

Mat 22:18 イエスは彼らの悪意を知って言われた。「偽善者たち。なぜ、わたしをためすのか。」

(1) イエスは、彼らの悪意を知っておられた。

- ①イエスを畏にかけようとしているのに、ほめ言葉を口にするのは偽善である。
- ②彼らは、イエスを試している、試みに合わせている。

2. 19節

Mat 22:19 納め金にするお金をわたしに見せなさい。」そこで彼らは、デナリを一枚イエスのもとに持って来た。

(1) イエスは納税のためのコインを要求した。

- ①イエスはそれを持っていなかった。
- ②周りの人たちも、持っていなかった。
- ③イエスのもとに持ってくるのに、少し時間がかかった。
- ④神殿内では、だれもこのコインを持っていない。

(2) 神殿内では、ローマのコインは使用できない。

- ①ローマに税を納める時の貨幣はデナリ銀貨である。
- ②そこには、カイザルの像が刻まれていた。

- ③神殿税のために使用する貨幣は、ユダヤの銅貨である。
- ④両替商は、高い手数料を取っていた。大祭司のファミリービジネスであった。
- ⑤イエスが宮清めの際に倒したのは、両替人の台である(ヨハ2:15)。

### III. 質疑応答(20~22節)

#### 1. 20~21節 a

Mat 22:20 **そこで彼らに言われた。「これは、だれの肖像ですか。だれの銘ですか。」**

Mat 22:21 **彼らは、「カイザルのです」と言った。**

- (1) ローマのデナリ貨にはカイザルの肖像と銘が刻まれていた。
  - ①神格化された皇帝の肖像
  - ②「Tiberius Caesar Augustus, son of the Divine Augustus」
  - ③これは、ユダヤ人を支配しているのがローマであることを証明していた。
  - ④また、ユダヤ人はローマの徴税制の下にいることを示していた。
- (2) 彼らは、「カイザルのです」と言わざるを得なかった。
  - ①彼らは、日々、ローマの支配下にあることを痛感していた。

#### 2. 21b~22節

**そこで、イエスは言われた。「それなら、カイザルのものはカイザルに返しなさい。そして神のものは神に返しなさい。」**

Mat 22:22 **彼らは、これを聞いて驚嘆し、イエスを残して立ち去った。**

- (1) イエスは、カイザルのものはカイザルに返せと言われた。
  - ①彼らは、ローマの統治による恩恵を被っていた。
  - ②ローマのコインを用いている、道路を使用している、平和を享受している。
  - ③彼らには、ローマに税を支払う十分な理由があった。
- (2) 彼らは、神の支配の下にもある。
  - ①それゆえ、神に対する感謝を表す必要がある。
- (3) イエスは、畏にかけようとして者たちを驚嘆に追い込んだ。
  - ①彼らは、そこを去るしかなかった。

**結論：2つの盲点**

## 1. 2種類の権威

(1) 旧約聖書には、2種類の権威が啓示されている。

①神の権威

②神から権限が委譲された地上の権威

(2) 神はご自身の主権によって、地上の支配者を立てる。

①ダニ4:17

「この宣言は見張りの者たちの布告によるもの、この決定は聖なる者たちの命令によるものだ。それは、いと高き方が人間の国を支配し、これをみこころにかなう者に与え、また人間の中の最もへりくだった者をその上に立てることを、生ける者が知るためである」(ダニ4:17)

②それゆえ、人間は地上の支配者に従う必要がある。

③この観点に立てば、ローマの支配を受け入れないパリサイ人の立場は誤りだということになる。

④1ペテ2:17

「すべての人を敬いなさい。兄弟たちを愛し、神を恐れ、王を尊びなさい」

(3) ただし、神の権威と地上の権威が対立する場合は、神の権威に従う。

①使5:29

「ペテロをはじめ使徒たちは答えて言った。『人に従うより、神に従うべきです』」

## 2. 神への従順

(1) パリサイ人たちは、ローマの支配に抵抗しつつも、税は納めていた。

(2) しかし、神の権威には従っていなかった。

①神から受けている多くの祝福を忘れていた。

②神に対する義務を忘れていた。

③何よりも、神の「像」そのものであるイエスを信じなかった。

④へブ1:3

「御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。また、罪のきよめを成し遂げて、すぐれて高い所の全能者の右の座に着かれました」